2018 年（平成 30 年） 8 月 25 日
第 70 号
発 行

一般社団法人
尼崎市手をつなぐ育成会
尼 崎 市 西 難 波 町 2-3-10
TEL（06）6419－3897
FAX（06）6419－3899
E-mail：ikuseikai.ama@y3.dion.ne.jp
http://www.ikuseikai-ama.com/

創立 60 周年を迎え

一般社団法人 尼崎市手をつなぐ育成会
会 長　井 上　三 枝 子

10 年前に創立 50 周年の式典を行ったのがついこの前ように思い出されます。

当時を振り返りますと、50 周年記念講演は、愛知県の社会福祉法人むそうの理事長戸枝陽基様をお招きし「規制緩和を生かして地域で生きる」というテーマでの講演会でした。当事者を取り巻き、地域で安心して生活できるよう「地域生活支援システム図」を作成するというのに驚きました。当時は、まだ、福祉サービスが充実していない中、グループホームを利用しながら、休日はヘルパーさんと出かけたりもしているという話を聞き理想的な生活でまだまだ先の話だと思っていましたがその後現実のものとなりました。

また、10 年前はちょうど、県の単独制度の生活ホーム・訓練ホームの廃止が打ち出された時期でしたが、生活ホームは当時制度が施行されたばかりのケアホームに、また訓練ホームは県が新規に創設したチャレンジホームに移行することが出来ました。特に訓練ホームは障害のある本人が親元から離れ将来を見据え自立のための練習の場で兵庫県が率先して作ったこの制度を誇らしく思っています。

その後福祉サービスの中に児童に対する放課後等デイサービスが創設され、放課後や長期休暇に子ども達を安心して預ける場ができ、保護者の就労や活動の場が広がりました。

10 年間で相談機能をはじめ緊急時対応など福祉制度はずいぶんと充実してきましたが、本人や保護者の高齢化は進んでおり、住む場所や医療に関してはまだまだ十分ではなく、喫緊の課題だと思っています。

病気になった時や相談したい時など気兼ねなく受診できるよう、またリハビリを兼ね継続的に診察してもらえる医療機関があれば安心です。特にリハビリに関しては尼崎市心身障害児(者)父母連合会として一緒に活動している肢体不自由児者父母の会と共にまた育成会単独としても兵庫県行政に県東部にリハビリテーション医療の設置をお願いしてきました。その結果、この度「県東部における障害児者リハビリテーション医療のあり方検討会」が設置され実現に向けて一歩進む事が出来ました。ここまでたどり着くには尼崎市行政の皆様方や北村保子様の後押しがあればこそだと思っており感謝申し上げますとともに、更に早期に実現できます様に重ねてお願い申し上げます。

会員同士の年齢差はますます広がり価値観も変化していくのは当然のことだと思いますが、災害時にまた困った時に助け合える仲間がいるというのは何事にも心強いものです。子どもの明るい将来を願い続けた当会が創立から 60 年を迎えました。これからも先輩たちの行動力を見習いながら、就学前の子どもから成人した子どもをもつ育成会だからこそできる事を考え活動していきたいと思っています。

(2018 年 7 月 13 日創立 60 周年式典挨拶抜粋)

就任のご挨拶

尼崎市教育委員会
教育長　松　本　　眞

年度４月より尼崎市教育委員会教育長を拝命しました松本　眞（まつもと　しん）でございます。

平素は本市の特別支援教育に多大なるご理解とご支援を賜り、ありがとうございます。

本市では一人ひとりを尊重する教育を基本方針とし、特別な教育的支援を要する園児、児童、生徒に対して多様な教育的ニーズを把握し、自立や社会参加に向け、適切な指導及び教育的支援を行い、主体的に生きようとする力の育成に努めているところでございます。また、保護者、本人等とともに合意して各校園で行った指導支援、合理的配慮の内容を各学校園間で引継ぎ、一貫した支援ができるよう努めております。特別な教育的支援の必要な子どもたちに対する早期からの一貫した支援のためには、学校園と家庭、地域との連携・協力体制の構築が不可欠であり、さまざまな関係機関の方々とも、より一層連携してまいりたいと考えております。

さて、先日は尼崎市手をつなぐ育成会の方々に教育委員会事務局に来ていただき、『まんまるはーと』による啓発活動についてお話を伺いました。さまざまな体験をもとにして知的障害とはどのような障害かを疑似的に体験してもらう活動を取り入れたワークショップを子どもたちに対して行っておられることに感銘を受けました。今後もこのような活動を幅広い年齢層の方々に広げていただくことが、将来の共生社会の実現につながることと確信しております。

今後、本市の教育行政の推進のために尽力してまいりますので、本市の特別支援教育の充実、子どもたちの自立と社会参加のためにお力添えをいただきますよう、お願い申し上げます。

育成会の啓発活動の一環として「心のとも鉛筆」を昭和 46 年から教育委員会や地域の先生方にご協力頂き販売させて頂きました。当初は、育成会から学校の休憩時間に直接販売をしていましたが、４年前からは会の事情により各学校で取りまとめ直接業者に申し込んでいただくようになりました。先生方にはお忙しい中申し訳なく思っておりましたが、今年度をもって鉛筆販売は終了いたします。47 年間本当にありがとうございました。
啓発については、３年前に立ち上げたグループ「まんまるはーと」で障害理解について積極的に活動しています。これからも新しい視点での啓発を考え実施していきたいと思っていますのでよろしくお願いいたします。

平成 29 年度まんまるはーと活動記録

日　付	対　　象	場　所	日　付	対　　象	場　所
4/6・11	尼崎市新規採用職員	身障センター	10/19	立花小学校保護者	立花小学校
6/5	小田高校　看護学科2年生	小田高校	10/24	長洲小学校保護者	長洲小学校
6/13	潮江子育て学級	小田支所	10/28	男女共同参画市民企画講座	尼崎市女性センター トレピエ
6/20	放課後等デイサービス「みかん」支援員	みかんの木	11/11	ミーツ・ザ・福祉	橘公園
7/11	難波小学校保護者	難波小学校	11/16・12/8	難波小学校5年生	難波小学校
8/5	みんなのサマーセミナー	双星高校	11/22	塚口幼稚園保護者	塚口幼稚園
8/26	社協　ボランティア	社協事務所	2/20	難波小学校4年生	難波小学校
9/7	園田地区民生委員	園田公民館			

就任のご挨拶

兵庫県立阪神地特別支援学校
校長　塚　本　久　義

はじめまして。この４月に、本校に着任いたしました塚本と申します。

本校は、西宮市の北東部に位置しており、東には武庫川が流れ、西を向けば、六甲山系を仰ぎ見ることができます。

知的障害のある子どもたちを対象とした学校として、地域の関係者の皆様のご努力により、兵庫県で２番目に尼崎市立尼崎第二養護学校として、昭和４０年５月１日に開校しました。その後、昭和４７年４月１日に、阪神養護学校組合立阪神養護学校となり、昭和５０年１月１日に県立移管され、今年度、創立５４年目を迎える歴史と伝統のある学校です。

平成２７年度に、共生社会の実現に向け、高等学校との交流及び共同学習を進めるとともに、ものづくりを通して社会自立、職業自立をめざすべく、県立武庫荘総合高校内に開設された分教室も、今年で４年目を迎えることができました。

平成３０年４月９日現在の児童生徒数は、小学部９９名、中学部７６名、高等部１４８名、分教室４４名、合計３６７名で、県下一番の大きな特別支援学校です。

なお、通学区域は、尼崎市全域と学校の南にある「ななくさ学園」で、一部の自力通学生を除き７台のスクールバスで登校しています。

子どもたちは、毎朝、明るく元気に、あいさつをよくしてくれます。分教室の生徒たちも真剣な眼差しで授業を受けています。

この学校に来てよい言葉だなぁと思ったのが、校訓に示された「明るく、たくましく、心ゆたかに、活気ある学校」です。元気なあいさつで、いい１日をすごし、いい汗をかいて、他人を思いやり、友だちと楽しく過ごせる活気ある学校づくりに努めてまいります。

今後とも、尼崎市手をつなぐ育成会の皆様をはじめ、地域の方々との関わりを大切にしながら、子どもたちの笑顔や自信のために、取り組んでいきたいです。ご理解、ご協力のほどよろしくお願いします。

兵庫県立
阪神特別支援学校
Hyogo Prefectual Hanshin School for Students with Special Needs

創立 60 周年記念式典･講演会･祝賀会

参加者　式典：130 名、祝賀会：95 名

７月 13 日尼崎商工会議所７階において育成会創立 60 周年の記念式典・講演会・祝賀会を行いました。

式典では、稲村市長始めご来賓の皆様方より心温まるご祝辞を頂き、また 10 年前 50 周年の式典にご出席いただいたご来賓の方も数名おられ月日の経つ速さや育成会に変わらずご尽力いただく姿に感銘を受けました。

講演会では障害のある人たちの高齢化について学び、その後の祝賀会では懐かしいお顔も見受けられ、時が経つのも忘れ昔話に花が咲きました。

式 典

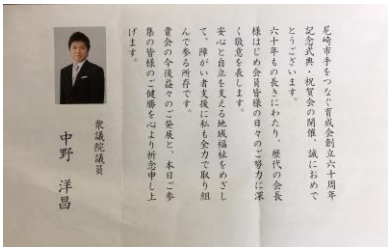
10:00～10:40

ご来賓の方々より温かいご祝辞を頂きました。

市長　稲村和美様

市会議員　北村保子様

教育部長　平山直樹様



尼崎市手をつなぐ育成会創立六十周年
記念式典・祝賀会の開催、誠におめで
とうございます。
六十年もの長きにわたり、歴代の会長
様はじめ会員皆様の日々のご努力に深
く敬意を表します。
安心と自立を支える地域福祉をめざし
て、障がい者支援に私も全力で取り組
んで参る所存です。
貴会の今後益々のご発展と、本日ご参
集の皆様のご健勝を心より祈念申し上
げます。

衆議院議員
中野　洋昌

国会議員　中野洋昌様からはメッセージと
秘書の能村様よりご挨拶を頂きました。

兵庫県社会福祉事業団理事長　山本嘉彦様

心温まる祝電

講演会

10:40～12:30

「知的障害者の高齢化と高齢期を見据えて若い頃からできること」

講師：筑波大学人間系（障害科学域）助教　大村美保氏

1．高齢知的障害者の理解　生物・心理・社会的アプローチ

一般に比べて加齢に伴う変化が早期にやってくる	→	壮年期からの健康診断や生活習慣病の予防的対応が重要
認知症はわかりにくいが、ケアの仕方が変わるので診断は重要	→	これまでの生活情報が必要で、「以前の様子」を知っていることが大事（趣味・嗜好・コミュニケーションの方法）

2．壮年期以降のケアと住まい

＊中年期から高齢期に差し掛かると生活と居所の問題が発生

- 高齢化対応のＧＨや重度の障害者支援を可能にする新たな類型の日中サービス支援型
- 共生型サービス（障害福祉サービスと介護保険サービス）

理由
- 生活を支える親が高齢になってくる。配偶者や子どもがいない。
- 加齢に伴う本人の変化が早い　等

3．高齢期を見据えて若い頃からできること

高齢になった時に誰が私の事や経歴を理解し、説明してくれるの？

	一般	障害者
前向き情報	スケジュール表・予定表・旅のしおり　など	アセスメントシート 個別支援計画　など
	定期的に見直し、更新される	
後ろ向き情報	写真・ビデオ・日記帳 SNS　など	？？（ライフストーリー）
	生活・人生を記録する	

？？の部分を一緒に作りましょう！

◇ライフストーリーワーク◇

- 自分の人生を理解するのを手助けする作業
- 絵や言葉、写真、作品、出来事などから、記録を作る

《内容》
生い立ちや家族関係、出来事
好きなこと、得意なこと、苦手なこと
失敗したこと、やり遂げたこと　など

《利点》
振り返ることや、積み上げることができる

本人と一緒に作成した自分の生活を振りかえるツールは、質の高い支援に役立ちます。

4．知的障害分野から地域社会へ！　つながり・見守りのかたち

＊障害サービスだけでなく必要な時に必要な支援に結び付く必要

＊社会福祉法人の「地域で行う公益的な取り組み」や「誰もが支えあう共生社会へ」

祝賀会

12:30～13:40

これからも育成会と共にがんばります！

県育成会の成り立ちとこれからの会活動にエールを頂き感激しました**

60 周年も続けて来られたのも先輩たちのお蔭。感謝しています。

なつかしいお顔に出会え時間の経つのも忘れ楽しいひと時を過ごすことができました。先輩の方々からパワーをもらいました。お料理もおいしかったです！

RPM講演会

日時：２０１７年 12 月１日(金)１０時 30 分～12 時 30 分
場所：尼崎商工会議所　　参加者：112 名

国内では初めてとなる RPM（ラピッド・プロンプテイング・メソッド）の講演会を開催しました。講師はアメリカからこの日のためにお越しいただいた鈴木麻子先生で、お話を聞こうとたくさんの参加者の方がお集まりくださいました。

講演では RPM の学習の方法や目的がわかりやすくまとめられており、実際のレッスンの写真や映像も見せていただくことができて、本よりも RPM を身近に感じることができました。特に鈴木先生がお家でお子さんと取り組まれている様子を映した動画には学習の効果がはっきりと表れており、非常に感動しました。講演後にはいくつもの質問が寄せられて、皆さんの関心の高さが伺えました。

講演会の様子

「子どもの知性を信じること」「学ぶことでその子の世界が広がり、考えられるようになることで自分で自分の行動も変えることができるようになる」―それが RPM の考え方です。講演会を聞いて、目からウロコが落ちたような思いでいます。今後は自分の子どもの知性を信じ、また RPM の学習法にもコツコツと取り組んでいきたいと思いました。

講師　鈴木麻子 氏紹介

神奈川県生まれ。カンザス大学にて音楽療法士修士号を取得後、アメリカで主に自閉症の子供や大人を対象に音楽療法士の仕事に約 20 年間携わってきた。知的障害を伴う自閉症の診断を受けた娘は、基本的な発語があっても会話にならず、自閉症児向けのクラスでは 10 歳になっても幼稚園または小学一年生程度の教育を受けていた。その頃ソマ・ムコパディエイの書いた教則本を参考にしながらラピッド・プロンプティング法（RPM）で教え始めたところ、娘が文字盤を使って適切な返答ができることがわかった。さらに、発語にならない言葉も文字盤を指差すことで表現できること、口から出てくる言葉は必ずしも意図的なものではないこと、いわゆる問題行動の多くは、意思が伝わらないためのフラストレーションが原因だったことなどがわかった。2015 年にソマの元で RPM 指導者としての訓練を受け、現在はアメリカで生徒の指導もしている他、日本で RPM についての情報を広めるための活動をしている。

RPM って何ですか？

ラピッド・プロンプティング・メソッドの頭文字をとった自閉症を持つ人への新たな教育方法です。それぞれの自閉症の特性を理解し、必要な援助を駆使しながら、彼らのもてる能力を高めていきます。大事なポイントは、学習を通して自己表出(ポインティング)が可能になる事です。

RPM Q&A

言葉や行動は知能や自閉症の重さに関係していますか？

自閉症の重さと知能には関連は無い、というのがあります。自閉症の重さとは、感覚統合がうまくいかないことや、極度の不安感や、強迫症や、体の（口も含め）コントロールがうまくできないことなどによって決まります。これらの要素によって、個人を外側から見て「この人の自閉症は重い（または軽い）」と判断しますが、それは、その人の内面にある知能の高さ、低さとは関係ありません。知能が非常に高い人でも、体のコントロールがきかなければ無発語であったり、歯をみがいたりトイレに行ったりという基本的なことも手助けが無ければできないことになります。また、「人を傷つけてはいけない。」「人に会ったら挨拶をしなければいけない。」ということを理解していても、極度の不安感などによって、人を傷つけたり、挨拶をすべき場面でプイと立ち去ってしまったりすることがあります。自傷行為も、体のコントロールがきかないためだったり、極度のフラストレーションを言葉で表現できないために起こることがあります。これらのことは、何人もの重度自閉症の人たちが文字盤やキーボードで証言しています。

RPM で大事な事は？

①外から見てどのような症状があったにしても、内面には（学ぶ、コミュニケートする）能力があることを信じる。

②年齢相応の対応の仕方をする、ということです。小学 1 年生なら、赤ちゃんのようにではなく他の一年生の子に話すように話しかける。5 年生なら、他の 5 年生に話しかけるように、そして読んで聞かせる本も、年齢相応か、なるべく年齢に近いものを選ぶ。本を読み聞かせようとして、子供が立ち上がってしまったり、何か他のものを手にしてそちらに注意が行っているようでも、実は聞いている場合が多いといわれています。（これも多くの証言があります。）

RPM は、自閉症で言葉の話せない人に文字盤でコミュニケーションをとる方法を教えるメソッドですか？

RPM は、学科教育をするのが第一目的です。年齢にあった教科についてやり取りをする練習を重ねることで、話し合っている内容に関して自分の考えを表現することが可能になります。逆に言うと、そのような練習をすることなしに突然ランダムな質問に答えるのは難しいと思います。

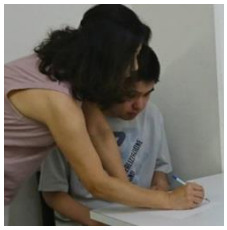
上記の本で詳しく解説しています。

Let's try

年齢にふさわしい内容を教え、なるべく興味深いお話のようにします。
今回は、桃太郎の話を例にします。鉛筆と紙を用意し桃太郎の話を読みます。
初めは１つのフレーズ、５分からでもOK！子どもの知性を信じて始めてみましょう。

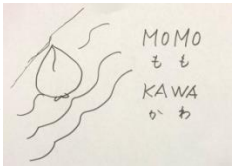
〈桃太郎のお話〉
むかしむかしおじいさんとおばあさんが山に住んでいました。おじいさんは山にしば刈りにおばあさんは川で洗濯をしていました。すると川上から大きな桃がどんぶらこどんぶらこと流れてきました。

① 子どもの前に紙を置き、右側に立ち桃太郎の文章を読む。



紙に川から流れてきた桃の絵を描く。
（子どもの興味を引くように読みながら書く。）

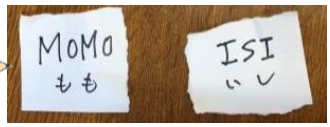
② 紙に学習ポイントやキーワードを書く。

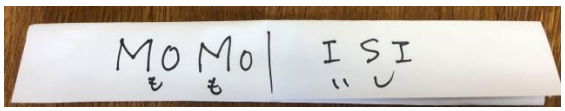


「川から流れてきたのは桃です」と言いながらMOMOとローマ字で書き下段にももとひらがなで書く。

③ 読んだ内容を質問する。「川から流れてきたのは桃ですか、それとも石ですか？」

２枚の破った紙に答えと間違った答えを書き鉛筆を渡し選択させる。
もう一方の答えは全く違うものにする。鉛筆は今答えている人という印で、選択後は親に返す。
間違った方を選んでも間違ったとは言わず、答えやすい方に紙を移動させ正解を促す。指すスキルの練習と捉える。





紙を破るのが苦手な子どもには長く折った紙の真ん中に線を引き左右に答えを書き鉛筆を渡し選択させる。 子どもが動いているときは目の前に持っていく。

④ 答えをステンシルに鉛筆で指す。

「流れてきたのは桃ですね」といいながらMOMOとステンシルをさして見せ、次は子どもに鉛筆を渡しささせる。

初めは４枚１組のステンシルをつかい、慣れてきたら１枚のステンシルにします。

ステンシルは㈱とんぼで購入できますが、ローマ字を紙に書いて始めても大丈夫です。

＊2017 年度主な活動＊

児童デイ座談会　10 月 20 日（金）

参加児童デイ事業所　とんぼ、あおぞら、みかん、こども kakeru、ヤシノキ

5 ヶ所の児童デイサービスに来ていただき、療育内容や特色を紹介していただきました。それぞれの児童デイがスライドや資料を用意してくださったので説明が大変わかりやすかったです。児童デイの皆さんがよく勉強されていることや、いろいろな取り組みがあることに驚きました。また、療育の場として情熱を持って運営されているのがわかり、これからも安心して子ども達を預けられると感じました。お母さん方からも、参加してよかったという感想が多く寄せられました。

障害のある子達の思春期の性　1 月 19 日（金）

講師　鹿野佐代子先生

思春期の性の問題にはどのようなものがあるか、どう対応すべきかを教えていただきました。鹿野先生が通勤寮に勤務していた時の経験を元に、実際の問題を例に挙げながらいろいろなお話を聞くことができました。

- 性の問題を特別視すべきではない。目をそむけたりせず、事前の取り組みが大切。本人への教育も有効である。
- 性の問題はマナーの問題につながっている。マナーを家庭内で教えることが大切。一度教えたからできているはずと思わず、時間が経てばまた確認が必要。
- 性を否定することはその人の生を否定すること。性に関心があるのは自然なことで、周りがそれを非難すると本人が隠すようになり、問題が潜在化してしまう。親と支援者とが連携して同じ考えで支援することが大切。

みんなの音楽会　3 月.24 日（土）

ミュージックセラピーの米津先生をはじめとして 4 人の音楽療法士の先生達による参加型の音楽会を初めて開催しました。対象年齢を 3 歳から小学生、中学生から成人と分かれて、少人数グループでの参加としました。愉快な太鼓でドコドコど～ん、サンバのリズムで民謡だ、鍵盤ハーモニカでゴスペルも･･･お気に入りの音で、みんなノリノリに楽しい時間を過ごしました。“音楽が好き！”という気持ちを大切にし、みんなで音楽を奏でる心地よさを体験できました。

成年期　みかん狩り　11 月 18 日(土)

淡路島　里農園＆たこせんの里

残念ながら雨の中の出発となりましたが、親子・ヘルパーの総勢 52 名でみかん狩りに行ってきました。淡路島に着く頃には雨もやんでいましたが、みかん狩りは中止となりました。里農園さんからはみかんの試食や揚げたての玉ねぎの天ぷらをふるまっていただきました。その後、たこせんの里やハイウェイオアシスで食事や買い物をし、帰りにはみかんのお土産もあり楽しい一日になりました。

学齢期 いちご狩り　3 月 27 日（火）

三田　匠のいちご狩りと有馬富士公園

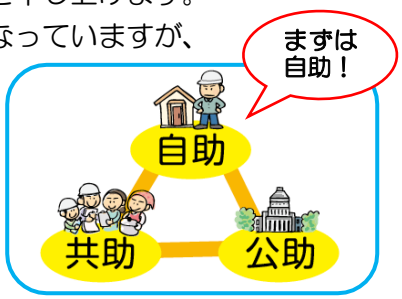
車内では恒例のビンゴ大会で盛り上がりました。匠のイチゴ園のハウス内はかなり暑くなっていましたが、イチゴの甘い香りに誘われてイチゴを堪能しました。その後、有馬富士公園に移動してからは自由行動とし、それぞれが存分に公園で楽しんだあと、帰路につきました。お天気に恵まれ、親子で春の一日を満喫できました。

災害への準備は出来ていますか？

６月 18 日大阪北部地震、７月には記録的な豪雨が続き広島、岡山、愛媛など西日本の広範囲で土砂災害や洪水による甚大な被害が出ました。被害に遭われた方々へのお悔やみとお見舞いを申し上げます。

今後、南海トラフ大地震をはじめどのような災害に見舞われるか不安が大きくなっていますが、災害に備えＡプロジェクトチームⅡでは、様々な角度から取り組んでいます。７月発行の「土と芽だより」124 号に「もし地震が起きたら…」を想定しとっさの行動や「災害用伝言ダイヤル」の使い方のプリントを配付しました。ホームページでも下記のように情報提供していますのでご覧ください。

「備えあれば憂いなし」もしもの時の準備を今から始めましょう。



目に付くところに貼りましょう！

もし地震が起きたら・・・

★1 分以上揺れたら津波が来ます!!

1．机の下にもぐる。
2．揺れがおさまったら玄関や窓を開け出口を確保。
3．停電の時はラジオ(電池式)または、携帯電話等で情報収集しましょう。
4．家を出る前にブレーカーを落としガスの元栓を閉めます。
5．まず、指定避難所へ。【場所:＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿】
津波の危険があるときは、近くの津波等一時避難場所に行へ。
【場所:＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿】
※津波は何回もやってくるので、６時間は避難場所にとどまりましょう。
津波の危険がなくなったら、指定避難所へ。
※福祉避難所は、二次的な避難所です。
一般の指定避難所に避難してから要配慮者と判断されれば行く事ができます。
自分の判断では行けません。
6．家族の安否確認。
※前もって決めておいた集合場所へ。
【例】避難所の入り口付近など、具体的に。
※電話はつながりにくいので、「災害用伝言ダイヤル」を利用しましょう。

自宅近くの指定避難所を記入しましょう

「災害用伝言ダイヤル」を知っていますか？

「災害用伝言ダイヤル」とは、地震等で被災された方の安否を確認する方法です。
通っている学校や事業所等で「災害用伝言ダイヤル」を利用するかどうか確認し下記の手順で利用して下さい。「災害用伝言ダイヤル」を利用予定のない所は、どのような方法で安否確認をしているかお確かめ下さい。会員の状況を必要があれば確認させてもらいます。
在宅や就労の方は、「災害用伝言ダイヤル」を使い育成会に連絡して下さい。

＊「災害用伝言ダイヤル」の使い方

災害用伝言ダイヤル 171

「171」にダイヤルする(ガイダンスが流れます)

伝言を録音
① 「1」を押す
通っている学校や事業所などの電話番号を市外局番から記入しもしもの時に備えましょう
②(＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿)をダイヤルする。育成会☎06－6419－3897
③「1＃」を押す
④メッセージを録音(30 秒以内)
⑤「9#」を押す(終了)

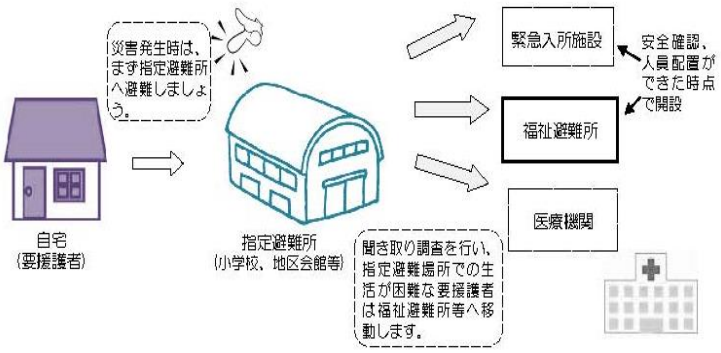
伝言を聞く
① 「2」を押す
②(＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿)をダイヤルする。育成会☎06－6419－3897
③「1＃」を押す
④伝言を聞く

中央の山田です。全員無事です。

≪メッセージ例≫　○○地区の△△です。家族全員無事です。××避難所に居ます。
※自宅以外の車中泊など居場所を具体的に録音して下さい。

一般社団法人　尼崎市手をつなぐ育成会　2018.7

とりあえず指定避難所へ、その後福祉避難所へ



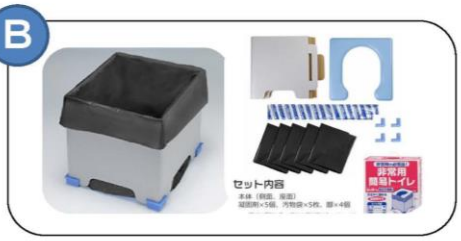
災害用簡易トイレ⇒被災した時は切実です

災害時、家や避難所で困ることは何だろう？？と話し合った中で、トイレが心配！という意見が多く出ました。ということで、今回はトイレ用品についての紹介をいたします。
まずは、段ボールで簡易トイレを作ってみました(^^)v　インターネットで探すと、いろいろな作り方が紹介されています。作ったものは、かなり丈夫なトイレでした。

ただ、実際災害が起こってから作るのは大変です。(地区懇ではお披露目しますね！)
そこで、市販されているものを調べてみました。
簡易トイレ＆凝固剤

A

B



Ⓐは、普段は箱の中に備品を梱包しておき、災害時には、梱包箱に付属の袋を装着してトイレにできるもの
Ⓑは、簡単に組み立てられるトイレ
どちらも、排泄物をゼリー状に固める凝固剤がついています。
凝固剤は、断水でトイレの水が出ない時

にも、便利でにおい対策にもなると思います。
これを機会にまた、家族で防災について考えてみてくださいね。

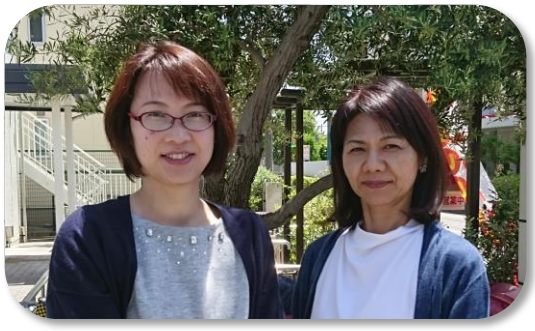
見直そう！防災グッズ

ベーシック(1 人仕様)

ファミリーST(3 人仕様)

パーソナル DX(1 人仕様)

新理事紹介



あこや学園
大坂早永

塚口福成園
儀間裕実

平成 29 年度 賛助会員

宮下　哲様、加藤泰子様、森　康祐様
福満久晃様、島　祐貴様、山元拓馬様
笠井喜世志様、大友昭吾様、田中伸治様

ありがとうございました。

尼崎市に次のような要望書を提出しました。

平成 29 年度 要望書

1．尼崎市内に複合施設の建設
- 高齢化、医療ケアに対応し、ショートステイや相談支援を併設した施設

1．知的障害児に対するインクルーシブ教育の推進
- 知的障害児への合理的配慮の整備

1．知的障害児に対する教育効果が高まるような方策を
- 特別支援学級にタブレット端末の導入及び生活やコミュニケーションツールとして活用

1．公共機関に特例子会社のような部署を設置

1．災害時における知的障害児・者への適切な対応

1．選挙における知的障害者への合理的配慮
- 知的障害者に配慮した投票環境の整備

1．リハビリセンターの設置

関西で住むのに一番魅力ある街は「尼崎」

ARUHI の発表によると京都、大阪、兵庫の２府１県について原則駅単位で<住環境、交通利便、教育環境、コストパフォーマンス、発展性>の５項目で住みやすさを比べた結果、尼崎がナンバー１に選ばれました。行政・市民が一体となった開発で「元々の工業地帯が住宅地として変貌」、また大きな商業施設も備え「将来は関東の武蔵小杉のようになる可能性がある」と評価されました。

ちなみに第２位は大阪市本町、第３位は京都市二条でした。

今秋には尼崎城が再建される予定です。

尼崎には世界に誇れる企業や施設、また文化も多く歴史あり、文化あり、産業ありの尼崎がこれからもますます発展していきそうなうれしい予感がします♥♥

尼崎城プロジェクト進行中！ AMAGASAKI

編集後記

今年は育成会 60 周年記念式典を盛大に行うことが出来ました。70 号という節目に 60 周年の記事を載せることが出来て新たなスタートになりました。
記念講演では、高齢期に向けての備えを話して頂きこれからの参考となりました。
RPM 講演会では、どんな障害を持っている子どもにも教育が必要という事を学びました。
新しい教育方法として発信していきます。
最後になりましたが、お忙しい中、原稿をお寄せ下さいました皆様にお礼申し上げます。